

N232 2号館3階	石黒 由馬グループ スポーツウエルネス学科 沼澤ゼミ  石黒由馬・宮城良壽・比嘉栄透 岡田陽太・清水颯人・松井大気 若生湧馬・大森彩愛・小森晴香 門間 彩・山田菜月・脇坂佳美 〈団体発表 12名〉 14:55-15:15	『スポーツとコンディショニング』  試合でベストなパフォーマンスを発揮するには、試合前にどのようにコンディショニングを管理するのがよいか、について睡眠時間や食事、練習のメニューや強度などから競技別に分析発表する。
	田仲 由依 福祉学科 4年 結城ゼミ 〈個人発表〉 15:15-15:35	『現代の若者の障害者差別への理解と意識 ～福祉を学ぶ、支援者であろうとする人に問う障害者差別～』 最近福祉施設の職員による虐待などのニュースをよく耳にする気がします。また、今年は相模原でも職員による痛ましい事件が発生しました。そこで私は、支援者を目指し、福祉を学ぶ学生だからこそ、どのような意識を持ち障害者差別について考えているのか知りたいと思いました。福祉学科の学生を中心にアンケートをとり、そのアンケートの結果から、どのような意識があるのか、どれほど障害者差別についての理解があるのか、探っていきます。また、そこから見えてくる福祉に関わる人々の障害者差別への課題をみつけていきたいと思います。
N233 2号館3階	朝倉 菜緒グループ スポーツウエルネス学科 松尾ゼミⅠ 朝倉菜緒・楠部由莉・小川貴世依 佐久間遙香・宮崎亜美 〈団体発表 5名〉 14:35-14:55	『「女性スポーツ」改革プロジェクト』  女子中・高生の授業以外での運動機会が少なく、それによって将来的な健康被害のリスクが高まるという課題を設定した。それに対し、そこには女性ならではの理由が隠されているのではないか、という観点からアンケートを中心とした調査を行い、女性のための支援策を、スポーツ政策という形で提案し発表する。
	中尾 彩夢グループ スポーツウエルネス学科 松尾ゼミⅡ 中尾彩夢・秋山奈穂 小檜山匠・坂本航 〈団体発表 4名〉 14:55-15:15	『特別支援学校におけるスポーツ活動定着の促進について～スポーツを身近な存在へ～』 スポーツをすることは全ての人に与えられた権利である。しかしながら、障害者のスポーツ実施率をみるとまだまだスポーツは身近な存在であると言えない。特に肢体不自由者の運動実施率は極めて低く、特別支援学校に通う生徒達がスポーツに触れる機会は非常に限られている。そこで我々は障害者スポーツの裾野にあたる肢体不自由特別支援学校に着目し運動・スポーツの普及促進を目的に支援策を考える。
	六笠 紘史グループ スポーツウエルネス学科 松尾ゼミⅢ 六笠紘史・中島輝 石橋笑美奈・永野紗緒理 〈団体発表 4名〉 15:15-15:35	『スポーツの未来を考える』  現在では若者のスポーツ離れや、それに伴う体力の低下が問題として挙げられる。これらの問題を解決に導くためには、あそびを通して初めて運動活動を行う幼少期の活動に着目する必要があるのではないだろうか。幼少期の運動活動内容をより豊かにすることで、将来的な運動習慣の定着につながると考え、支援策を提案する。



## コミュニティ福祉学会“まなびあい” 第9回年次大会

2016.11.12. Sat.

13:30-19:20

(13:00 受付開始)

### プログラム

■総会・第2回研究実践奨励賞授賞式

13:30~14:00 4号館3階 N431

■分科会

14:15~15:35 2号館3階 N231,N232,N233

■講演会

15:50~17:50 4号館3階 N431

■懇親会

18:05~19:20 こかげ

### ■会場案内図

N231・N232・N233  
: 2号館3階

<分科会> 14:15~15:35

N431 (4号館3階)へは、階段なしでそのままお進みいただけます。

N431 : 4号館3階  
<総会・授賞式>  
13:30~14:00  
<講演会>  
15:50~17:50



<働くこと>の意味を問う。

~今、働いている人、これから働く若者たちへ~

■大会趣意

今回の大会は、上記のテーマを基軸として今日のワーキングプアやブラックバイト問題等のまずは若者をめぐる労働問題から「働く」ことの意味を問いながら、「労働者として働く者の権利」の真の意味を皆で考え、「自分の生き方」や「就活のヒント」が得られる機会になることを目指しています。講演会には、ブラックバイトユニオン共同代表の渡辺寛人氏をお招きし、ブラックバイト問題の実態や背景についてお聴かせいただき、なぜ不本意なアルバイトを辞めることができないのか、ブラックバイト問題に取り組む意義について考えていきます。分科会では、自由演題発表として、大会テーマにとらわれず、学生、卒業生、教員の皆さんが日ごろ研究、調査しているテーマの発表を行います。本年度は、英語での発表も予定しております。懇親会は、学生、卒業生、教員など様々な立場の方が分け隔てなくお互いに語りあい、“まなびあい”が「現場と大学の架け橋」の役割となることを期待しています。コミ福の輪を広げる、きっかけになれば幸いです。

■プログラム

時間	内容	会場
13:00	受付開始	4号館3階 N431 前
13:30 ～14:00	総会 第2回研究実践奨励賞受賞式 (学会誌『まなびあい』第8号掲載作品から選出されたものです。)	4号館3階 N431
14:15 ～15:35	分科会 自由演題発表 11件が各会場にて行われます。各発表の詳細は、右頁からの分科会発表概要をご参照ください。	2号館3階 N231 N232 N233
15:50 ～17:50	講演会 「ブラックバイト問題とユニオンの取り組み」 ■講師■ 渡辺 寛人氏 (ブラックバイトユニオン共同代表) 1988年神奈川県生まれ。社会福祉士。大学院生。貧困研究、福祉社会学。ブラックバイトユニオン共同代表。共著に『断絶の都市センダイ』(朝日出版)。 ■講演概要■ 学生が学生らしい生活を送ることができないほどの過酷なアルバイト、いわゆるブラックバイト問題が広がっている。しかし、「アルバイトなんて辞めればいいじゃないか」という声も根強い。本講演では、ブラックバイトユニオンの取り組みから見えてきたブラックバイト問題の実態や背景を紹介し、なぜアルバイトを辞めることができないのか、ユニオンを通じてブラックバイト問題に取り組むことによるどのような意義があるのかを考えていく。	4号館3階 N431
18:05 ～19:20	懇親会 学びあいの場であると同時に、卒業生の同窓会としての要素も兼ね、学生と卒業生、教員の交流の場でもあります。“まなびあい”が、現場と大学の架け橋となることを願っています。 ■参加費■ 学生・院生:無料 卒業生・一般:1,000円 教員:2,000円	4号館1階 カフェテリア こかげ

■運営委員会からのお知らせ

コミュニティ福祉学会“まなびあい”運営委員会では、運営委員として、一緒に活動して下さる方を募集しています。  
・年1回の“まなびあい”年次大会(11月開催)などに向け、隔月1回程度で運営委員会を行っています。  
・委員は、学生・卒業生・先生から構成されており、様々な方と知り合い、交流できる機会があります。  
・やってみたい企画を、実現できる場にもなります。  
関心のある方は、事務局(担当:小林)までお気軽にお問い合わせください。  
＜コミュニティ福祉学会事務局＞ Tel 048-471-7308(月・火・木 9:00～15:00) Mail: cchs@rikkyo.ac.jp

■分科会発表概要 (各発表15分、質疑応答5分程度を予定しています。)

会場	発表者・所属 (発表形式) 時間	発表タイトル・概要
N231 2号館3階	荒木 公成グループ コミュニティ政策学科 原田峻ゼミⅠ 荒木公成・今井彩貴 金丸恵理子・寺田壱成 西田亜蘭・根本翔 藤井駿・三上真奈 〈団体発表 8名〉 14:15-14:35	『セクシャルマイノリティー当事者のライフヒストリーとそれを取り巻くコミュニティの実態調査』 多様化する現代社会の中で、生きづらさを抱える人々が自分らしく生きていくためにはどうすればよいのか？ セクシュアルマイノリティー当事者とピアサポートグループ及びNPO団体に対して質的調査を行い、当事者個々のライフヒストリーやコミュニティの現状をインタビューに基づいて考察します。
	今井 彩貴グループ コミュニティ政策学科 リッチーゼミ 今井彩貴・江花松樹 リッチー ザイン アーロン 〈団体発表 3名・英語〉 14:35-14:55	“Student narratives of their participation in short- and long-term study abroad programs” In this presentation, two students of the College of Community and Human Services will discuss their experiences studying abroad. Following a brief introduction by Mr. Ritchie, Ms. Imai will talk about her participation in a short-term program to Dublin, Ireland in 2016. This will be followed by Mr. Ebana, who will outline his experiences in a one-year exchange program at Victoria University of Wellington, New Zealand, in 2015. The presenters hope that these narratives will motivate other students to challenge themselves and apply to various study abroad programs, either short-term or long-term, depending on their individual requirements. They also desire to broaden the audience's perspectives of the world outside of Japan and to introduce what they believe are life-changing possibilities and opportunities that can arise from studying abroad.
	三上真奈グループ コミュニティ政策学科 熊上ゼミ 三上真奈・木佐真真子 富樫笑里・土谷啓介 齋藤 憲一 〈団体発表 5名〉 14:55-15:15	『学習や行動の困難を有する小学生への支援 ～新座市小学校での継続的实践から』 私たちはゼミの活動として週1回東北小学校にピアサポーターとして、子供たちと接する他、特別支援教育について学んでいます。現場を通して学んだことを大学生ならではの視点で、意見を踏まえながら発表させていただきたいと思えます。
	池田 梨奈 コミュニティ政策学科 原田峻ゼミⅡ 〈個人発表〉 15:15-15:35	『自主避難家庭が抱える問題点』 2011年3月11日の福島第一原発事故により、多くの人々が福島県内・県外への避難を余儀なくされた。本発表では、事故当時に避難指示区域外に居住しており、自主的に埼玉県に避難をするに決断した家庭を対象に、母と子どもそれぞれの視点から、避難の経緯や苦労した点などについてインタビューを通して明らかにしていく。
N232 2号館3階	飯泉 良太グループ スポーツウエルネス学科 今西ゼミⅠ 飯泉良太・浅見秀平 戸田葵・齋藤結実子 小野綾華・森田朝香 〈団体発表 6名〉 14:15-14:35	『足関節テーピングは疾走・跳躍パフォーマンスを低下させない』 スポーツ現場において、「テーピングをすると動きにくくなるため、なるべく貼らないほうが良い」と言われることが多い。しかし、テーピングによって本当に身体パフォーマンスが低下するか否かについて検証されたことはない。そこで本研究は、代表的なテーピングである「足関節テーピング」を対象とし、疾走、跳躍能力をテストしたところ、身体パフォーマンスを低下させる結果はみられなかった。
	野本 宏二グループ スポーツウエルネス学科 今西ゼミⅡ 野本宏二・清水裕貴 船戸龍斗・北島有澄香 富山結貴 〈団体発表 5名〉 14:35-14:55	『笑顔が身体パフォーマンスに及ぼす影響』 全力疾走や格闘技、球技での試技中に「笑ったほうが良いパフォーマンスが得られる」と言われることが多い。しかし、「笑顔」によって本当に身体パフォーマンスが良くなるか否かについて検証されたことはない。そこで本研究は、さまざまな身体運動(疾走、跳躍、バスケットボール、フリースロー)を対象として、笑顔の効果を測定したところ、巧緻性が求められる身体パフォーマンスにおいて良い影響がみられた。